GCS Newsletter No. 1

福井大学国際地域学部 Newsletter 編集委員会　2017/02/20

福井大学国際地域学部の創設 1 年目を終えるにあたって

福井大学　国際地域学部長　寺岡英男

国際地域学部はまもなく 1 年が経とうとしています。お陰様で、この 1 年間は順調に来ていたと言えるのではないかと思います。1 年次の英語教育の授業も、学生は確実に力をつけてきています。また自治体や企業等の皆様にお世話になっている課題探求プロジェクトも、学生は熱心に取り組んだようで、その一端は、例えば PBL 基礎 A の公開発表会でご覧いただいたりしていますが、それに参加された皆様や高校の先生方・生徒さんたちからも高い評価をいただきました。

学生たちは授業ばかりでなく、1 期生という自覚のもと、主体的に、積極的にオープンキャンパスや学部を紹介し語るいくつかの機会にも参加し、貢献してくれました。

いま 2 年目の入試の只中ですが、受験者がどれほどになるかということについて、多くの皆さまからご心配を頂いていました。お陰様で昨年度とほぼ同程度の倍率となりました。前期・後期入試はこれからですが、今回新たに行った AO 入試の確かな手応えなども合わせ考えれば、良い方向に進んでいると思われます。

いよいよ 2 年目を迎えます。アプローチ分けによる履修の発展、PBL の一層の展開と、より進んだ教育のレベルにチャレンジすることになります。引き続き学部づくりに励んでいきたいと思いますので、皆様方から、ますますご理解とご支援をお願い申し上げます。

福井大学国際地域学部の PBL の試み

福井大学　国際地域学部副学部長　木村　亮

国際地域学部創立後まもなく 1 年を迎え、ようやく「ニュースレター」第 1 号をお届けすることになりました。この「ニュースレター」は、県内の企業・自治体・団体等さまざまな方々のご協力の下に実施される「課題探求プロジェクト」における学生の取組みの紹介を中心に、国際地域学部における教育の進捗状況を地域の方々にお知らせするもので、年 2 回の発行を目指しています。

今号では、後期に実施された 1 年生を対象とする課題探求プロジェクト基礎Ａ・基礎Ｂの概要をご紹介します。特に基礎Ａにおいては、延べ 24 の企業・自治体等にヒアリング相手となってもらい、大変お世話になりました。

来年度は新 1 年生に対して同様の授業を実施するほか、新たに 2 年生を対象に課題探求プロジェクトⅠ・Ⅱを実施します。後者では、学生たちは、皆様方の仕事や事業の実情やその背景を探求し、自ら課題を考えていく土台を築くため、大学と皆様方の現場との間をたびたび往還する作業に取り組みます。私どももそれを可能にする力量を学生に身につけさせるために尽力いたします。皆様方には私どもへのご鞭撻となお一層のご支援をよろしくお願いします。

内容

福井大学国際地域学部の創設 1 年目を終えるにあたって（1）
福井大学国際地域学部の PBL の試み(1)
課題探求プロジェクト基礎 A2016 の取組(2～3)
課題探求プロジェクト基礎 B2016 の取組(4)

課題探求プロジェクト基礎Ａ　2016

1 年後期の第 3 クオーターの PBL 基礎 A では、1 年生全員を対象に、福井の産業振興や地域振興の現状や課題に触れることを目的に、下記の A から J の 12 のテーマについてグループ活動を行いました。授業ではテーマ毎に事前学習を行い、福井で活躍する企業や自治体等の皆様へのヒアリングを通じて、各分野の実情や課題を学びました。その知見に 1 年生の現時点として考えうる提案も踏まえて、最終報告会でプレゼンテーションを行いました。

	課題探求テーマ	1 回目ヒアリング先	2 回目ヒアリング先
A1	福井の企業の海外事業展開	フクビ化学工業株式会社	日華化学株式会社
A2	福井の企業の海外事業展開	前田工繊株式会社	オリオン電機株式会社
B1	企業等の人材育成	福井県総務部人事企画課人事グループ	セーレン株式会社
B2	企業等の人材育成	三谷商事株式会社	福井キヤノン事務機株式会社
C	女性活躍推進の取組み	福井県総合政策部ふるさと県民局 女性活躍推進課	株式会社福井銀行 企画運営グループ人事企画チーム
D	商業地区の運営	協同組合福井ショッピングモール	まちづくり福井株式会社
E	伝統工芸品産業の取組み・展望	株式会社土直漆器	株式会社滝製紙所
F	農産物の地産地消の取組み	有限会社ファームビレッジさんさん	ＪＡ福井市　喜ね舎　愛菜館
G	これからの観光業の課題、取組み	近畿日本ツーリスト株式会社福井支店	芦原温泉旅館協同組合
H	地域の活性化を支える公共交通事業の役割と課題	えちぜん鉄道株式会社	京福バス株式会社
I	若者の県外流出とその対策	福井県経営者協会	福井県総合政策部ふるさと県民局 若者・定住支援課
J	まちなかの賑わいづくりの取組み	まちづくり福井株式会社	一般社団法人三國會所

日程	各コマのテーマ	活動内容
1 回目 10/6	課題探求テーマの共有と ヒアリング先の事前学習	（1）授業概要の説明（狙い・進め方・評価等）【20 分】 （2）課題探求テーマの共有とヒアリング先の説明【40 分】 （3）チーム毎に課題探求テーマとヒアリング先の事前学習を行う【120 分】 （4）20 日（27 日）訪問企業にアポイント（挨拶、訪問時間、訪問場所の確定） 【宿題】事前学習資料等を読みヒアリング項目案を箇条書きでレポートにまとめる
2 回目 10/13	ヒアリング準備	（1）進め方の説明（宿題・進捗状況確認、ヒアリング項目作成の流れ）【20 分】 （2）ヒアリング内容の相談（個人意見を KJ 法で分類する）【20 分】 （3）ヒアリング項目（聞くべきこと）の作成【50 分】 （4）各班からのヒアリング項目案の報告と共有【30 分】全体を半分に分けて （5）ヒアリング項目のブラッシュアップとヒアリング準備【40 分】 （6）ヒアリング決定項目の報告と共有【20 分】全体を半分に分けて 【宿題】ヒアリング項目をヒアリング先へ送付
3 回目 10/20	ヒアリング①	（1）現地でのヒアリング（質問者・記録者の役割分担） （2）チームでのヒアリング内容の確認と班メモの作成 【宿題】ヒアリング内容の班メモの作成
4 回目 10/27	ヒアリングの振り返り とヒアリング準備	（1）１件目のヒアリング内容の振り返り （2）２件目のヒアリング項目の作成 【宿題】ヒアリング先へのアポイント、ヒアリング項目の送付
5 回目 11/10	ヒアリング②	（1）現地でのヒアリング（質問者・記録者の役割分担） （2）チームでのヒアリング内容の確認と班メモの作成 【宿題】ヒアリング内容の班メモの作成
6 回目 11/17	ヒアリング内容 の取りまとめ	（1）２つのフィールドで得た知見の取りまとめ （2）班の報告内容の取りまとめ 【宿題】プレゼンテーション資料の作成
勉強会 11/18	講演会 (国際地域学部設置記念シンポジウム)	時間　13:30-16:45　　　場所　総合研究棟Ⅰ　13 階会議室 記念講演「中国・ASEAN 経済と大学での人財育成」 事例報告「福井の地域における国際化—県内諸分野からの報告」
7 回目 11/24	プレゼンテーション	（1）プレゼンテーション・質疑応答【各班 15 分（10 分報告、5 分質疑)】 （2）全体振り返り宿題 【宿題】振り返りの個人レポート作成

グループディスカッションの様子

グループ活動では事前学習を踏まえて質問項目を作成し、1回目のヒアリングに臨みました。しかし、緊張のためか形式的な質問にとどまり、思うように掘り下げた質問や意見交換ができなかったと悔やむ学生もいました。2回目は比較的リラックスしてお話しを伺うことができ、ヒアリング終了後のグループワークでは、訪問先の状況を比較しながら取組や問題意識の共通点や相違点を検討しました。

芦原温泉旅館協同組合でのヒアリング

福井キヤノン事務機でのヒアリングの様子

福井銀行でのヒアリングの様子

最終報告のプレゼンテーションでは、ヒアリング先の企業や自治体等の皆様、高校生や報道機関等の多くの方が見守る中で、各グループが学んだことについて報告を行いました。

また報告後にはヒアリングでお世話になった企業や自治体等の皆様から、感想や質問、労いのお言葉をいただき、学生の励みになりました。

最終プレゼンテーションの様子

授業終了後の学生へのアンケートでは、実際に企業や自治体等のご担当者にお話しを聞けて、関心が高まり視野が広がったという意見や、もっとヒアリングに行きたかった等、今回のPBLの機会が福井の産業振興や地域振興への関心を示す入り口になったようです。また、社会人としてのマナーやディスカッションスキルを高める必要性を強く感じたという意見や、もっと時間をかけてプレゼンテーションの内容を煮詰めたかった等、これからの学生生活での良い課題発見の機会にもなったようです。

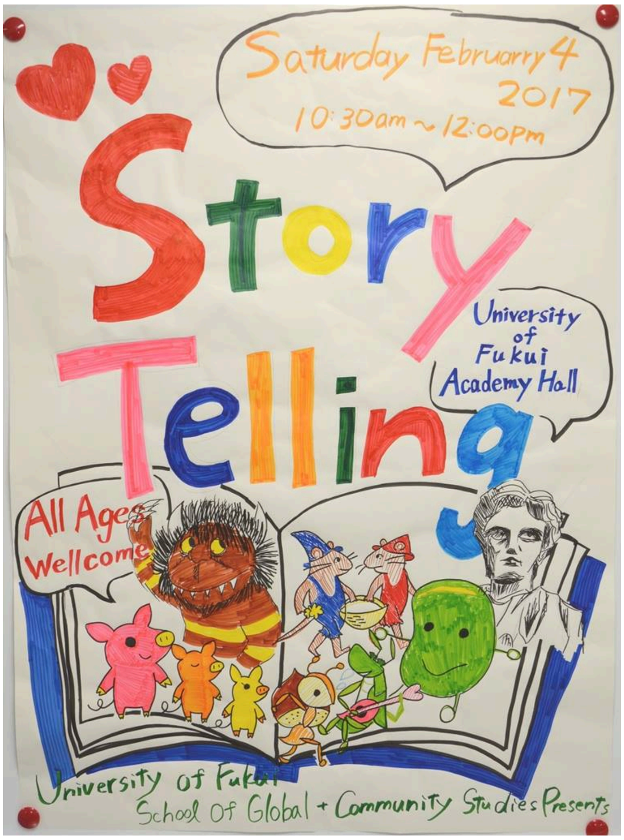
課題探求プロジェクト基礎Ｂ　2016

■PBL 基礎Ｂ：ストーリーテリング

1 年後期の第 4 クオーターの PBL 基礎 B では、学生をストーリーテリングとタイ訪問の 2 つのコースに分けて授業を実施しました。

12 月から 2 月初旬にかけて行ったストーリーテリングのコースでは、学生の学びだけではなく、子ども達に英語の楽しさを伝え、親しみを感じてもらうことを目的としています。学生達は伝え方等の基礎的なレクチャーを受けた上で、12 のグループに分かれて、読み聞かせの題材探しや、絵本や紙芝居、演劇や人形劇等の伝え方を考え準備を行ってきました。当日は、子どもたちだけではなく、保護者の皆さんも興味深く聞き入っていました。

ストーリーテリングの当日の様子



学生たちの手作りの案内チラシ

■PBL 基礎Ｂ：Comparative Study

もう一つの PBL 基礎 B のコースでは、2 月 12 日から 25 日までタイを訪問し、高等教育の比較体験のプログラムを実施しています。

現地では、アサンプション大学で Jaruwa 博士から「タイ言語・文化」「タイ教育とグローバル人材育成」の講義を受け、日本や福井の文化・教育等について学生がプレゼンテーションを行いました。また福井銀行バンコク駐在員事務所の橋本大樹氏から「タイ・ASEAN における日本の企業展開」と「グローバル人材育成・求められる人材とは」について講義いただきました。また現地視察プログラムでは、タイのダイキン工業株式会社取締役の簗山吉徳氏にご対応いただいたほか、ホームステイやタイ国内の複数の大学訪問のプログラムも実施しています。

GCS Newsletter No.1 2017.02.20
編集:福井大学国際地域学部：Newsletter編集委員会
〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9-1 TEL 0776-27-9936